

うたらば

短歌×写真のフリーペーパー「うたらば」

2024.09 vol.37

TAKE FREE

片思 い

今回のテーマ

短歌とは



5・7・5・7・7の5句31音のリズムで詠まれる短い抒情詩。

俳句で使われる「季語」は不要。

古くは奈良時代から身分の貴賤を問わず親しまれ、

現代でも日々の想いを綴る詩形として幅広い層に詠まれています。

一方で、その長い歴史を国語の授業で習うこともあります。

短歌とは難しいものである、と思っている人もしばしば。

このフリーべーパーは「短歌をよく知らない人」に

現代短歌の面白さに触れていたくために作ったもの。

軽い気持ちで、ぜひページをめくつてみてください。

作品テーマ

片思 い



誰にも内緒の
秘めた思いが
実を結ぶまでの
小さな旅路





胸の鼓動が
うるさくて
何を話したかも
思い出せない

下の名を不意に呼ばれて跳ね上がる

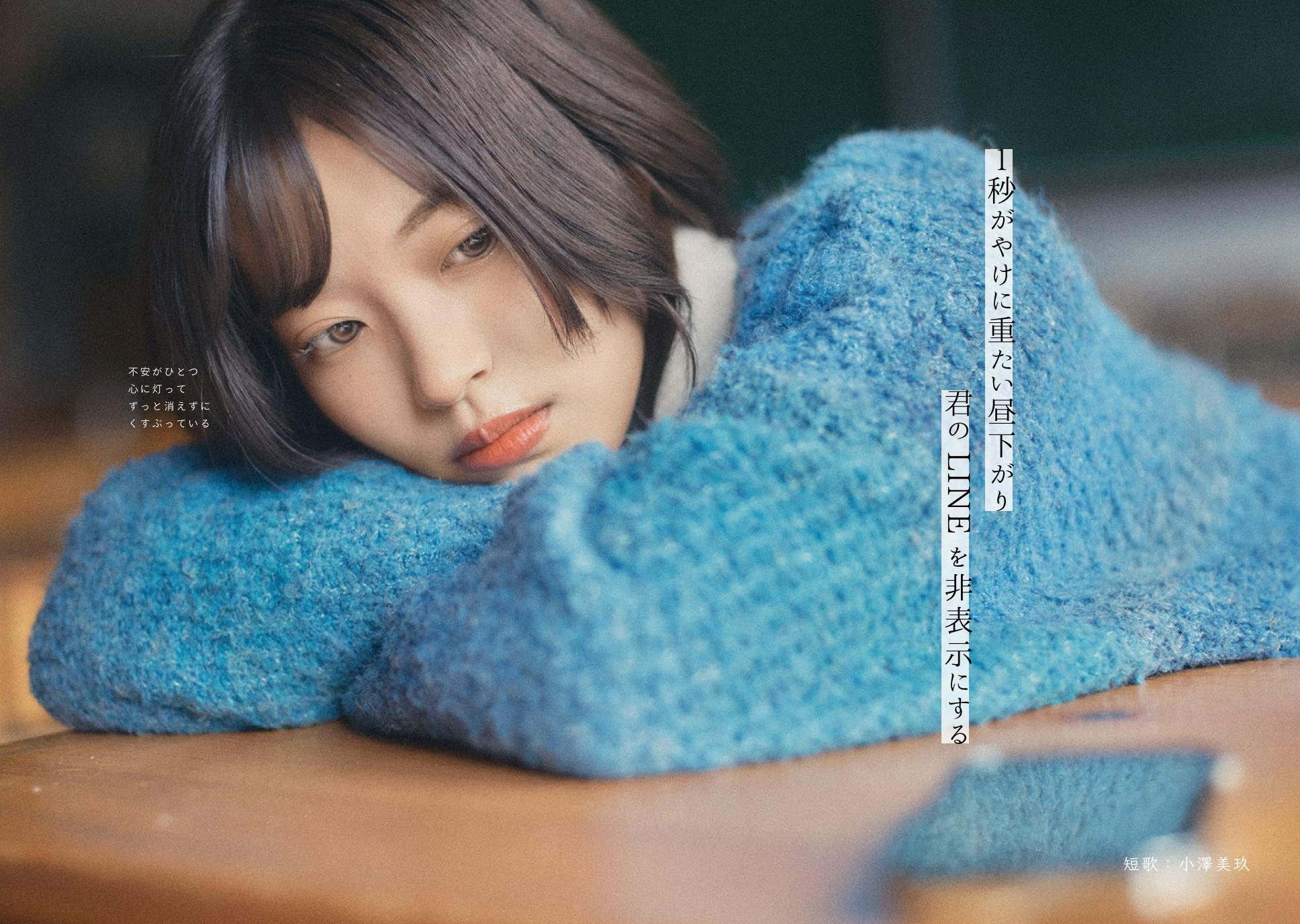
こんな気持ちがはじまりだつた



認めるしかない
気持ちがあって
認めてしまえば
楽しくなった

かさのないままのさんぽでぬれながら

うたいたいほどだいすきでした



不安がひとつ
心に灯って
ずっと消えずに
くすぶっている

一秒がやけに重たい昼下がり

君のLINEを非表示にする

短歌：小澤美玖



説明のできない
優しさや寂しさを
わかる日が来ると
信じてみよう

取りのつかぬ気持ちに「春」とだけ

付箋を付けて日記を閉じる

短歌：芍薬



教室であなたをチラ見する

技術だけがメキメキ上がっています

こっそりとあなたを
瞳に焼き付けて
夢まで運んでいた
日々でした

短歌：中山あゆみ

佳作集



片思い①

かなうなら鳥より犬よりうさぎよりどろぼう猫になりたかった日／風花 雪
九人目だけど毎回この人が運命というきみのまっすぐ／長谷 小麦

夢を追うきみの背中はすしげで 風だ ふれられない潮風だ／葉村直
さよならをふたりで決めたあの日から始まるあなたへの片思い／宮緒かよ

どの道もあなたへ続く道だから白馬のようなバスに揺られる／ナカムラロボ
会いたくて歩いた道だが会えなくて少し安心していいた午後四時／皐月 葵
「あなたにもあつたんですか初恋が」メガネをかけた学芸員に聞く／丸山哲史

感情が分かるフリして詞を書いた わたしに振られた君の目線で／伊藤七
気まぐれに日が差すように向けられた笑顔ひとつを抱きしめていく／中田好奇

*

心臓をいつそさらしてしまったくなる海行きのバスにふたりで／十条坂

あいみょんを歌つたカラオケ帰りには喉の痛みもここちよい夜／月見だいふく
秋になり暑いが暖かいになるみたいに君を好きになつてた／渡邊泰明

*

欲しいのは花ではなくて「おはよう」の空気の振動ただ、それだけ／のこ

かろうじて切れずにあつた細い糸、潔く絶つ、アドレスを消す／玖嶋さくら
先輩の受験応援してますがこのキットカットは違う意味です／もあいり子



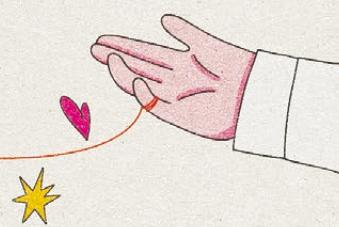
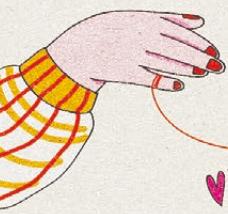
でもきみを手にできなくて詠む歌にもらういいねは嬉しくていい／hitohari

きみがいることが理由になつてゆく 眠れないのもよく笑うのも／丸瀬まる

「片思いが一番楽しいよ」と言った姉から香る化粧の匂い／友常甘酢

うたたねの夢に来られるくらいなら盆と年末以外も来てよ／椎名

すれ違う渡り廊下で視線さえ合わない人よはつなつの風／もなか





無邪気に笑う
あの日のきみを
死ぬまでに何度
思い出すかな

さようならきみは近くで遠すぎる

わたしの会えるアイドルでした



あなたという
目的地まで
雲が続いて
いきますように

手を繋ぎたいと思つて 穏やかに

泳ぐ指から雲が生まれる

短歌：老川由良



恋をしている
顔ですねって
言われて気付く
変化があって

あの人を見るきみの目が優しくて

わたしのもそう見えてるのかな



おまじないしか手がなくて魔女になる

魔女は恋する意気地なしです

結果を知りたい
けど怖いから
まずは心の
準備をしてる

パスワード忘れ質問に答える

『彼女の好きなクリームソーダ』

たくさん忘れても
ひとつだけ覚えてる
それがあなたで
ありますように



恋の生みだす
幻想が日々
膨らんでいく
膨らんでいく

目が眩むわたしの作つた偶像が

あなたを超えてゆくまばゆさに



片思い②

「一番目でいいよ」と言つたはずなのになんで私は泣いてるのだろう／澤子
片思いだからここまで近づいた距離が苦しいけど笑つてる／一行よしみ

わたしならあなたの全部愛せます 振り向いてくれるまでの背中も／吉田冬扇
会う度に骨抜きにして永遠の悪い魔法をかけるみたいに／きさらぎなる

二人だけ取り残された夜みたい、なんて素面で思えば恋だ／古川柊

好きな絵を眺める人の後ろから眺める好きな人の好きな絵／たろりずむ

いつだって思い通りにならぬのだ猫はわたしの膝を横切る／衣末（みみ）
雪が降る、虹を見つける、雨が降る、恋した時は上を見ている／中村マコト

燃えるゴミ燃えないゴミと分けながらどこかで恋をあきらめている／大野博司

手紙さえ贈らなければまだ僕は無傷で死ねると下駄箱の前／麻数

花びらが偶数になる花はどれどるじやなくつて予習だよ Siri／畠 依裕

先輩がくれたラベル テプラ特売品ならあなたが買ってよ／白崎さき

遠くまで会いにきてくれてありがとう。ところで値札ついたままだよ。／小倉竹生
キューピーのパスタソースとおんなじで あえるだけでも嬉しくなるの／ぱやは

もう意味を持たない日付が意味を持つ 変えられないでいるパスワード／夏雨

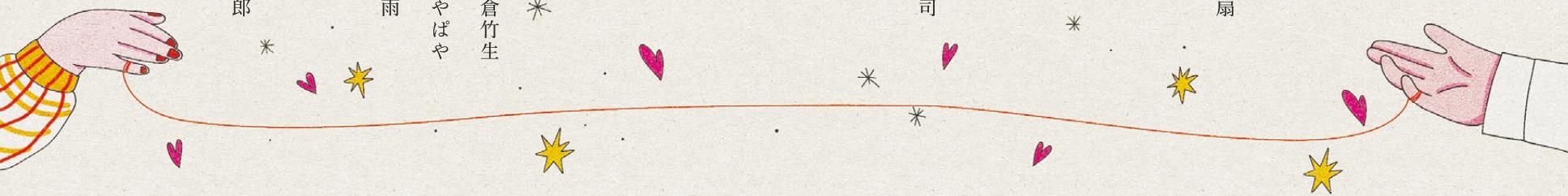
天国のロンサムジョージ若き日に片思いしたこともあつたか／佐々木敦史

初めから両思ひって嘘だろうものには全て後先がある／貴田雄介

夜遊びと呼ぶべきだろうこんなにもあなたの夢を見てしまっては／栗田悠太郎

どちらかが好きになつたら友達は友達ごっこになるよ おやすみ／いちり

朝顔のつぼみのままの片思い同じ空気が吸える二学期／あおい月影



はじめてのひとり暮らしに椅子の向きだけ考えておわる週末

(青糸りよ)

「はじめて」だからこそ、慎重にあらゆるケースを想定して部屋のレイアウトを考える。「はじめて」でなくともレイアウトは考えるのですが、椅子の向きだけでも週末が終わるほど考えるのはやはり「はじめ」だからこそリアルだと感じました。太陽の動きを読み間違えるとすぐ住みにくい部屋になるんですね。

ゆっくりとドアを開ければ早朝にしか聴こえない静寂がある

(丸瀬まる)

まだ人の気配も車の往来も少ない時間帯。いつもの街の、いつもと違うその空気を味わえるのが早朝であり、早起きを経験したことがある人には納得感の高い一首です。「朝にしか聴こえない静寂」という表現がとても素敵でした。静寂とはいえ僅かな音はあり、その音を内包する静寂を聞く、という把握が見事です。

泣きながら食う弁当のたくあんのマヌケな音を早く消したい

(新道拓明)

泣いている主体。泣きながら弁当を食べますが、たくあんはどう食べてもボリボリと音を立ててしまいます。やるせない気持ちの主体と、その気持ちに相応しくない音の共存が当の本人には申し訳ないですが笑いを誘います。作者の実体験かどうかは分かりませんが、このシーンを短歌として掬い上げたこと自体が実はすごいことだと感じました。

子のくれたひらがな文字が難解で感動までに少し間が空く

(梅鶴)

「ありがとう」なのか「だいすき」なのか、子どもの書いた難解な文字を一文字ずつ解読した後、ゆっくりと並べて読み、初めて意味に気付くような、その緩やかな時間を想像できるところが秀逸でした。時間をかけたものだからこそ、感動も深くなる。まるで映画のワンシーンを観ているような感覚になれました。素敵。

新潟の「潟」の字にちよつと自信なく格好つけて崩して書いた

(友常甘酢)



間違った使い方ですサイダーを振るな笑うなこつち向けるな

(早坂つぐみ)

下の句の言葉の臺みかけが見事でした。

「潟」の右上は「白」だったか「白」だったか。その下に横棒はあったのか。そんな悩みも崩して書けばばしないだろう的な誤魔化す感情がいかにも人間らしくて好感が持てます。「格好つけて」で主体の性格も強調されていて微笑ましいですね。何気ないシーンでも短歌の形にすると共感を生む好例のような作品。

しつれん、とフリックすれば親切にハートが割れる絵文字の候補

(アカマツヒトコト)

シリアルな事実を誰かに伝えるときのスマート入力でその都度提示される絵文字。物によつては変にポップだったりして、時間で意味に気付くような、その緩やかな時間を想像できるところが秀逸でした。時間をかけたものだからこそ、感動も深くなる。まるで映画のワンシーンを観ているような感覚になれました。素敵。

世話、です(笑)



早退した古典はやっぱ進んでて、あり、をり、はべり、いま、疎外感

(葉村直)

古典におけるう行変格活用動詞「あり。をり。はべり。いまそかり」。高校の授業で一度は聞いたことがあるこのフレーズを下敷きにして、授業を休んだ主体の心境がチャーミングに表現されています。「前回の授業でやったの覚えてるか?あり。をり。はべり。いまそかり!」などと言う先生が目に浮かびました(笑)



新しい命を祝うお返しの力タログギフトで貰う牛肉

(ふうらい牡丹)

出産の内祝いでもらったカタログギフトに載っていた牛肉。柔らかい言葉を選んで一首が構成されていますが、新しい命が誕生した幸せな世界の裏で、人間の食糧になるために消えていく命があるとの対比に気付いた途端、読後感となるなんとも言えない寂しさが込み上げてくる。上の句の韻律の整い方も含め、非常に完成された一首ですね。

短歌募集中

• • • • •

最新の機種を揃えて待つているスマート売り場のサンタ集団

(鶴岡佑)

世界中の子供たちに無償でプレゼントを配るサンタと、その時期になると商業施設に現れて有償でモノを売るコスプレサンタ。作品で描かれているのはスマート売り場の景のみですが「サンタ」という共通認識をうまく利用して、その景に感じた違和感をうまく読者に届ける作品となっています。既存イメージを借りる手法は手軽に三十一文字の外側まで世界を広げられて効果的ですね。

「潟」の右上は「白」だったか「白」だったか。その下に横棒はあったのか。そんな悩みも崩して書けばばしないだろう的な誤魔化す感情がいかにも人間らしくて好感が持てます。「格好つけて」で主体の性格も強調されていて微笑ましいですね。何気ないシーンでも短歌の形にすると共感を生む好例のような作品。

「月刊うたらば」では、いつでも作品を募集しています。毎月変わる投稿テーマにて、短歌作品をぜひお寄せください。今月のテーマや募集要項などの詳細は「うたらば」公式サイトをチェック→



恋の箍 年々脆くなつていて

お酒の趣味が合うだけで好き

同じ方向を
向いていなくちゃ
いつか離れて
しまうかもでしょ



短歌：田中ましろ



編集後記

最後までご覧いただきありがとうございます！
vol.37【片思い】も前号に続き少し変則的なページ構成でお届けいたしました。さすが相聞歌、といったところでどうでしょうか。投稿作品数も約 900 首といつもより多く、素敵な作品がたくさんあったので佳作集として通常の 2 倍である 40 首を収録させていただきました。写真短歌作品のページも 1 首分だけ増量し、読みごたえのある一冊になったかと思います。

今号の発行でようやく通常の更新ペースに戻せそうです。フリーペーパーの作品募集も再開し、再出発をしようと思いますので、ご投稿者様、配布店舗の皆様、今後ともうたらばへのご協力を何卒よろしくお願ひいたします！

企画・写真・詩・デザイン
田中ましろ

うたらば vol.37【片思い】 2024 年 9 月 18 日発行

○企画・撮影・編集 / 田中ましろ X @tnkmsr_photo

○モデル / TOKO G @iamtookoo

○短歌 / 投稿者の皆様

X @utalover G <https://www.utalover.com/>



短歌は
もつと
自由になれる